

1/18 “第4回MBTみんなで守るいのちの映画祭” 特別上映「明日の記憶」主演の渡辺謙さんから エールを送っていただきました！

- ・ご自身も白血病や胃がんの闘病生活を体験された映画俳優の渡辺謙さん、MBTが推進する「難病克服キャンペーン」の趣旨をご理解いただき、NHK大河”べらぼう“の多忙な撮影スケジュールの合間にMBT映画祭のステージに駆け付けられエールを送っていただきました。



渡辺謙さんエール概要

→渡辺謙さんから色紙にサインをいただきました

- ・渡辺謙です。MBT映画祭の受賞者の皆さん、おめでとうございます。
- ・本日上映いただける「明日の記憶」は2006年作品で、僕も白血病や胃がんを体験した中で、この小説を読んだ時に非常に胸を打つ部分がたくさんあり、すごく感動しました。
- ・そこでプロデューサーに、この映画をちゃんと作りたいと連絡し、僕自身、主演に加えプロデューサー参加や監督選び、脚本も共同で制作した作品です。
- ・この映画は認知症を扱ったものですが、ここで伝えなかったことは、病気と健康は分けられないものであり、認知症を告白されたらその先には病気と向き合う日常が患者さんにも家族にも待っていることを分かった上で、そういう病気を得た人間、家族の日常を僕らがどのように伝えていけるかを主眼において脚本作りから監督とも議論をし作らせていただいた作品です。
- ・この映画が出来上がった時に、この想いがちゃんと伝わるだろうか、大変失礼なことをしてしまったのでは、との後悔の念もあり、患者さんとその家族を招待してプライベートな試写会をやらせていただきました。映画上映が終わり、改めて皆様の前で想いをお伝えしようとした時に、ある家族の方が、“私の主人はこの病気で会社を辞め今治療中だが、どうい苦しみの中で会社を辞め病気と向き合ったのかを話してくれなかったし分からなかった。この映画を見てあんな思いの苦しい精神の中で今に至っているんだということが良く分かった”とおっしゃっていただきました。
- ・その時に、この映画を作って良かった、私の作りたかった想いが伝わった、という良い思い出が深く刻まれた映画です。
- ・人生百年時代というが、病を得ないで人生を終える人はいません。病気はネガティブなものではなく人生の新しいページをめくっていくのだという風に捉えていただける映画を作りたいと思っています。
- ・人の支えがいる、お医者様との対話もいる、この映画の根底にあるものをくみ取っていただければと思います。

